赤ちゃんの四季（39）　平成22年秋

犬のしつけに学ぶ

我が家の愛犬は、気性が激しく、時に飼い主を咬む。出産を控えた娘のすすめで、生まれくる子どもに万が一のことがあってはならないと、神戸市動物管理センターが行っている「家庭犬のしつけ教室」を夫婦で受講してきた。インストラクターの中塚圭子氏は、元小学校教諭で、JKC（ジャパンケンネルクラブ）公認訓練士の資格をもち、自宅で自宅スタジオにてドッグ ・スクール「ドルチェ・カーネ中塚」を開催し、これまでに指導してきた犬は約4500頭というキャリアをお持ちの方で、動物行動学的視点でのしつけ法は、なかなか説得力のあるお話でした。

家庭で飼われている犬は、元々の野性動物として習性と人間社会のルールの間で葛藤しているということです。野性味が強いと攻撃的になり、人間社会のルールに従おうとし過ぎると病気になり、まるで人間社会の子どもたちが、いじめや不登校で悩むのとそっくりです。犬は畜生ということで高圧的な接し方はもっての他ということです。力ずくでしつけをしようとすると、必ず犬は反発します。だから、咬むのです。ゆっくりと語りかけてあげること。犬にストレスを与えない飼い方としては、飼い主が、いつも変わらぬ態度で接し、犬を混乱に陥れないことだそうです。

もう一つ、犬には冗談が通じなということです。面白がって、犬をからかうような態度は、犬のとっては迷惑千万、本気で怒らせてしまいます。まあ、大人の社会でも冗談が冗談として通じなければ、険悪なムードになること必死です。